

# レジメン登録申請書

がん(癌)種: 乳癌

申請診療科: 乳腺外科 申請医師: 保科 淑子 内線:

レジメン名称: Pembro+GEM+CBDCA

化学療法委員会医師: 保科 淑子 内線:

	No	薬品名	規格	投与量	投与ルート 手技	点滴時間 速度	day	day	day	day	day	day	day	day	day	day	
							[ 1 ]	[ 8 ]	[ 15 ]	[ 22 ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]
化学療法 (抗癌剤)	2	ペムブロリズマブ注	100mg	200mg	点滴静注	30分	○	×	×	次クールへ							
		生理食塩液	100mL	100mL													
	0.2μm~5μmの蛋白質透過型インラインフィルターを使用																
	4	ゲムシタビン注	1g・200mg	1000mg/m <sup>2</sup>	点滴静注	30分	○	○	×	次クールへ							
		生理食塩液	100mL	100mL※							※全量100mLに調整						
	6	カルボプラチン注	450mg・ 150mg・	AUC2	点滴静注	30分	○	○	×	次クールへ							
	5%ブドウ糖液	250mL	250mL														
補助療法	3	デキサメタゾン注	1.65mg	9.9mg	点滴静注	30分	○	○	×	次クールへ							
		パロノセトロン注	0.75mg	0.75mg													
		生理食塩液	100mL	100mL													

上記で使用する抗癌剤情報

No	薬品名	規格	標準値	上限値	累積 投与量

サマリーコメント(申請理由・趣旨)

適応外で、倫理委員会・医学研究等の承認を得た場合は資料を添

2 週投与	1 週休薬	委員長	事務局	薬剤部
1クールの日数:	21 日			
レジメン基準日:	day 1			

※抗癌剤の標準値と上限値は必ず記入して下さい注意: 同一処方内容の場合でも投与時間が異なるときは別のNoに記載してください

※単位はmg/m<sup>2</sup>, mg/body, mg/kg

1クールの日数とレジメン基準日は必ず記入して下さい

化学療法委員会 平成 22 年 9 月 2 日作成

新規  
 変更  
申請日: 2022 年 1 月 13 日

# 化学療法治療計画書(プロトコール)

がん(癌)種: 乳癌

実施診療科: 乳腺外科 実施医師: 内線:

レジメン名称: Pembro+GEM+CBDCA

クール数: 2 週投与 1 週休薬  
1クールの日数: 21 日  
身 長: cm  
体 重: kg  
実施部署: レジメン基準日: day 1  
体表面積: m<sup>2</sup>

患者ID: 患者氏名:

実施日						月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
No	薬品名	規格	投与量	投与ルート 手技	点滴時間 速度	day ( 1 )	day ( 8 )	day ( 15 )	day ( 22 )	day ( )						
1	生理食塩液	50mL	50mL	点滴静注	全開	○	×	×	次クールへ							
2	ペムブロリズマブ注	100mg	200mg	点滴静注	30分	○	×	×	次クールへ							
	生理食塩液	100mL	100mL													
0.2μm~5μmの蛋白質透過型インラインフィルターを使用																
3	デキサメタゾン注	1.65mg	9.9mg	点滴静注	30分	○	○	×	次クールへ							
	パロノセトロン注	0.75mg	0.75mg													
	生理食塩液	100mL	100mL													
4	ゲムシタビン注	1g・200mg	1000mg/m <sup>2</sup>	点滴静注	30分	○	○	×	次クールへ							
	生理食塩液	100mL	100mL※													
※全量100mLに調整																
5	生理食塩液	50mL	50mL	点滴静注	全開	○	○	×	次クールへ							
6	カルボプラチン注	450mg*	AUC2	点滴静注	30分	○	○	×	次クールへ							
	5%ブドウ糖液	250mL	250mL													
7	生理食塩液	50mL	50mL	点滴静注	全開	○	○	×	次クールへ							
<p>転移・再発乳癌に対する全身性の前治療歴のないPD-L1陽性(CPS≥10)のホルモン受容体陰性かつHER2陰性の手術不能又は再発乳がん患者において、ペムブロリズマブと化学療法との併用投与の有効性が示される。</p> <p>(厚生労働省 最適推進ガイドライン ペムブロリズマブ ~乳癌~ 令和3年8月)</p>																

化学療法(抗癌剤)